

平成 29 年 7 月 12 日
株式会社マイクロコンテンツ
株式会社クイリー

暗号化技術とクラウド技術の融合で安心・コスト削減のサービスの提供

マイクロコンテンツとクイリー、 電子で行う「献本」サービスを開始

株式会社マイクロコンテンツ(本社:東京都中央区、代表取締役 社長:鈴木道典、以下:マイクロコンテンツ)と株式会社クイリー(本社:東京都千代田区、代表取締役 社長:嶋村信行、以下:クイリー)は、このほど、出版社向けに安全かつローコストで「献本」ができる電子献本サービスを開始いたします。マイクロコンテンツが持つ出版業界のノウハウとクイリーが保有する暗号化技術を融合してシステムを構築いたしました。このサービスは「暗号化された書籍を、受け取った特定の人だけが、定められた期間だけ読める」画期的なサービスです。

電子「献本」サービスとは

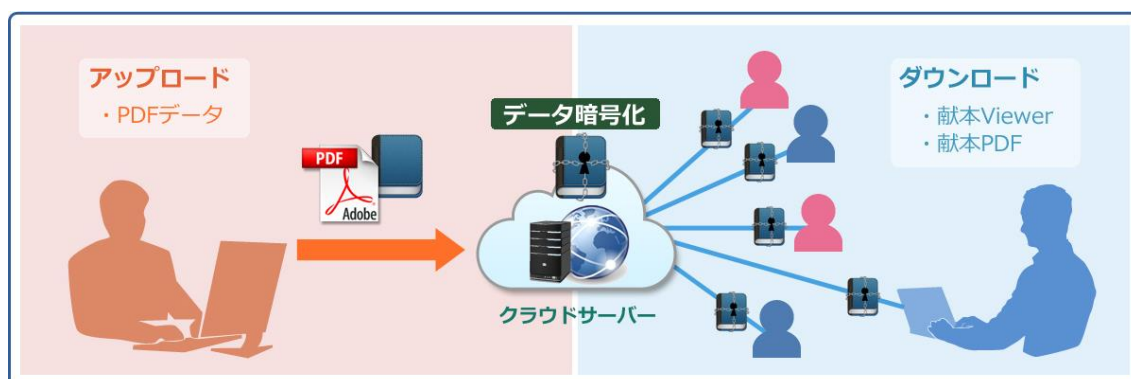
出版界でよく行われている献本には、上梓の際に著者が行う著者献本と大学等の先生方に向けて行われる採用献本があります。前者の著者献本は、極めて限定された数の献本にとどまるのが普通です。また後者の採用献本は、講義やゼミのテキストを決めるための献本で、送る書籍も多く、本自体のコストに加え、梱包代、郵送代、人件費が掛かり、出版社にとっては大きな負担です。前者は、従来の著者献本に電子書籍で行う「自著紹介サービス」を加えることで、実際に読める電子書籍で広く自著を紹介でき、後者は、「電子採用献本」に置き換えることで、従来のコストをほぼゼロにできます。電子「献本」サービスは、これを実現する新しいサービスです。

「献本」にとどまらず、多くの人や機関にコストを掛けずにサンプル本(閲覧期限付き)として送ることも可能です。高価な本や書店に置かれていない本などは内容を確認してから購入したくても現実にはできませんでした。紙の書籍を暗号化・期限付きの電子的な見本として送付できる電子「献本」サービスがあれば、読者は、本の内容を確認し、納得して購入することが可能になります。

安心・安全・安価な書籍全部の見本を送ることができるこの電子「献本」サービスは、必ずや書籍(紙も電子も)の販売増につながるものと確信しております。

<補足資料>

【システムイメージ】



■システムの主な特徴

- ・電子的な見本(「献本」)に使用する PDF データは暗号化(AES128bit)いたします。
- ・暗号化した PDF データに閲覧期限を設けることができます。
- ・暗号化した PDF データは閲覧専用の「献本 Viewer」で閲覧します。
- ・閲覧期限が過ぎたら PDF データは PC から自動的に削除されます。
- ・「献本 Viewer」は PC に展開いたしますが、インストールはされません。

【動作環境】

・システム

対応ブラウザ Internet Explorer、Microsoft Edge、Google Chrome、FireFox、Safari 等

・閲覧(献本 Viewer)

対応 OS Windows7 以降

【アップロード画面 PDF データ登録・送信画面イメージ】



【献本 Viewer PDF データ選択画面イメージ】



・記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

以上